

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「大鏡」と三船の才」と問題

一年、入道殿の大井川に^①逍遙せ^アさせ^②給ひ^イしに、作文の船、管絃の船、和歌の船と^③分かた^ウせ^④給ひ^テて、その道に^⑤たへ^エたる人々を^⑥乗せ^オさせ^⑦給ひ^カしに、この大納言の^⑧参り^⑨給^{ヘキ}るを、入道殿、「かの大納言、いづれの船にか^⑩乗ら^クるべき。」と

^⑪のたまはすれば、「和歌の船に^⑫乗り^⑬侍ら^コむ。」と^⑭のたまひて、^⑮詠み^⑯給^{ヘサ}るぞかし、

小倉山嵐の風の寒ければ紅葉の錦^⑰着シ^ヌ人ぞなき

^⑱申し受け^⑲給^{ヘス}るかひ^⑳ありて、^㉑あそばしえたりな。御自らも^㉒のたまふ^ソなるは、「作文のにぞ^㉓乗る^{タバ}かり^チける。さてかばかりの詩を^㉔つくり^ツたら^テましかば、名の^㉕上がら^トむことも^㉖まさり^ナな^ニまし。口惜しかり

^㉗けるわざかな。さても、殿の、『いづれにかと^㉘思ふ。』と^㉙のたまはせ^ヌしになむ、我ながら^㉚心おごり^セられ^ノし。』と^㉛のたまふ^ハなる。一事の^㉜優るるだに^㉝あるに、かくいづれの道も^㉞抜け出で^㉟給^ヒけむは、いにしへ^も侍ら^フぬこと^ヘなり。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「大鏡」・三船の才」 解答

サ変未 尊敬 ハ四用 過去

一年、入道殿の大井川に^①逍遙せ^アさせ^②給ひ^イしに、作文の船、管絃の船、和歌の船と

タ四用 尊敬 ハ四用 過去

分かた^ウせ^④給ひ^テて、その道に^⑤たへ^エたる人々を^⑥乗せ^オさせ^⑦給ひ^カしに、この大納言の

ラ四用 ハ四用 存続

参り^⑨給^{ヘキ}るを、入道殿、「かの大納言、いづれの船にか^⑩乗ら^クるべき。」と

サ下二用 尊敬 ハ四用 過去

(11) のたまはすれば、「和歌の船に^⑪乗り^リ侍ら^コむ。」と^⑫のたまひて、^⑬詠み^⑭給^{ヘサ}るぞかし、

カ上一未 打消

小倉山嵐の風の寒ければ紅葉の錦^⑯着^シぬ人ぞなき

カ下二用 ハ四用 完了 ラ変用 サ四用 完了

申し受け^⑯給^{ヘス}るかひ^⑰ありて、^⑱あそば^セしだりな。御自らも^⑲のたまふ^ソなるは、「作文のにぞ^㉑乗る^タべかり

詠嘆 ラ四用 完了 反実仮想

チ^ケる。さてかばかりの詩を^㉒つくり^ツたら^テましかば、名の^㉓上がら^トむことも^㉔まさり^ナな^ニまし。口惜しかり

ハ四終 伝聞 ラ四用 婉曲 ラ四用 強意 反実仮想

けるわざかな。さても、殿の、「いづれにかと^㉕思ふ。」と^㉖のたまはせ^ヌしになむ、我ながら^㉗心おごり^セられ

過去 ハ四終 伝聞 ラ下二用 ラ変用

ノし。」と^㉘のたまふ^ハなる。一事の^㉙優るるだに^㉚あるに、かくいづれの道も^㉛抜け出で^㉜給^ヒけむは、いにしへ

ラ変未 打消 断定

も侍ら^フぬこと^ヘなり。

ラ四終 適當

サ変未 自発

ダ下二用 ハ四用 過去婉曲